

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
和歌山コンピュータビジネス専門学校	2013/4/1	三木 繁清	〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田字堤下41-1 (電話) 073-474-0200																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
和歌山コンピュータビジネス専門学校	1987/3/27	三木 繁清	〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田字堤下41-1 (電話) 073-474-0200																																												
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																										
工業	工業専門課程	IT科システムエンジニアコース		平成24年文部科学省 告示第2号	-																																										
学科の目的	コンピュータの設計やソフトウェア開発に必要な知識・スキルを身に付けた、クラウドコンピュータにも精通したプログラマーとして、社会で貢献できる人材を育てることを目的とする。																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
2年	昼間	2077時間	1235時間	842時間	0時間	0時間	0時間																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数																																									
215人	178人	38人	10人	7人		17人																																									
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験、出席状況																																										
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:7月13日～7月19日 ■秋季:10月29日～11月4日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月18日～3月31日			卒業・進級条件	在学する学科において、取得科目の時間数850時間以上で進級とし、また取得科目の時間数合計が1700時間以上である条件の上に、卒業審査会議を期末に行い、校長がこれを認定する。																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者への電話連絡と指導(自動メール送信・保護者連絡・担任指導・家庭訪問・年2回三者[保護者・学生・担任]面談)			課外活動	■課外活動の種類 「わかやま商工まつり」参加や、有志5企業団体による社会参加有り。 ■サークル活動: 有																																										
就職等の状況	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) IT業界 (株)エンザントレイズ/(株)シーエスイー/和歌山ゼロックス(株)/ (株)ユアブレインズ/サントリービパレッジサービス(株)/日産プリンス和歌山販売(株)/(株)ぼん家具/ナビオコンピュータ(株)/(株)延田プライム/日本ソフトウェアデザイン(株)/(株)トラスト・ネクストソリューションズ) ■就職指導内容 業界との強い結びつきが本校の特徴である。毎年、和歌山県内はもちろん、全国から求人が寄せられ、多くの学生が全国各地で活躍している。創立31年目となるため、卒業生が多数のIT企業で活躍し、積み重ねた信頼の結果、新たな求人を生み出すという好循環を形成している。 ■卒業者数 18 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 : 94 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 94 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>16</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>②</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>MOS Wordスペシャリスト</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>MOS Excelスペシャリスト</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>IPA修了試験</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>J検3級</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>サーティファイ情報処理技術者試験2級1部</td> <td>③</td> <td>18</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	応用情報技術者試験	②	2	0	基本情報技術者試験	②	16	4	情報セキュリティマネジメント試験	②	2	0	ITパスポート試験	②	9	3	MOS Wordスペシャリスト	③	11	11	MOS Excelスペシャリスト	③	9	6	IPA修了試験	③	9	6	J検3級	③	12	11	サーティファイ情報処理技術者試験2級1部	③	18	11
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																												
応用情報技術者試験	②	2	0																																												
基本情報技術者試験	②	16	4																																												
情報セキュリティマネジメント試験	②	2	0																																												
ITパスポート試験	②	9	3																																												
MOS Wordスペシャリスト	③	11	11																																												
MOS Excelスペシャリスト	③	9	6																																												
IPA修了試験	③	9	6																																												
J検3級	③	12	11																																												
サーティファイ情報処理技術者試験2級1部	③	18	11																																												
中途退学の現状	■中途退学者 2名 6% 平成29年4月1日時点において、在学者34名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者32名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 NPO法人Peer心理教育サポートネットワークと連携し、プロのカウンセリングを受けることができる等、教育相談部と担任、また心理教育機関が連携して中退防止を図る。学生の希望により同学科内での転科を認め、進路相談に学校として取り組んでいる。																																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 AO入学奨学金:(早期に入学を決め、自己推薦を行ったものに対する奨学金2~10万円の補助有。) 兄弟姉妹奨学金制度:(過去に親兄弟、姉妹が本校の卒業生であることで、15000円の授業料免除がある。) 資格奨学生制度:(評定平均4.6以上の高校生、また基本情報技術者試験もしくは英検2級保持者には、特別指定校推薦枠で10万円の授業料免除がある。)																																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 評価団体:職業訓練実践課程編成委員会 受信年月:平成30年9月 ホームページ:http://www.myros.ac.jp/																																														
当該学科のホームページURL	http://www.myros.ac.jp/course/																																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が望むプログラミング言語の学習を授業に取り入れ、即戦力になる実践的知識をカリキュラムに導入している。IT企業関係者の役員職員や、IT企業の人事関係者、また地域の教育機関と共同し、教育課程を編成する。

当該業界が求めるスキルを分析し、

「自主独立・社会貢献」を理念として、グローバルな視点、組織内で連携するコミュニケーション能力、常に先進的な内容に取り組むプロジェクト能力を身に付け、

- ①最新の技術
- ②高度な資格
- ③希望する就職

を叶える人材育成を方針のテーマとし、教育課程編成委員会と連携して、地域に根付いた職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。

IT業界の産業振興の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れて反映することで、教育課程を改善する。

具体的な意見の聴取方法としては、アンケート方式や教育課程編成委員会の委員所属先以外への働きかけも積極的に行い、求める人材のヒアリングを組織的に行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は、専修学校和歌山コンピュータビジネス専門学校と企業関係者等の外部役員からなるものとし、互いの意見を積極的に交換し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。また、教育課程編成に関する意思決定の過程は、3月と9月に設け、以下の通り行っている。

3月

【メインテーマ】:次年度の教育課程編成

【教育課程編成の基本方針決定・委員選任の妥当性・科目の概要】

まず企業関係者等の外部役員から業界に望まれる人材のヒアリングを行い、専攻分野に必要な人材スキル等の向上方法をとりまとめ、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。

この協議内容に基づき、科目と科目概要を決定し、教育課程の骨組みを完成させる。その際起こりうる問題点等もピックアップし、前年度起こった問題などの振り返りも行っている。

教育課程編成基本方針決定 → 教育課程編成の科目詳細決定 → 教育課程編成の決定委員会構成員である本校職員によって作成された仮案に基づいて、再度委員会で協議して、次年度の教育課程を決定する。

9月

【メインテーマ】:教育課程編成の内容検討会

【教育課程編成の基本方針が実施できるかの報告と意見交換、次年度実践内容の決定事項確認】

3月の会議の内容を反映した教育課程が実践できたかどうか、評価項目に従って説明を行う。各項目に関連する学術機関や企業等委員から意見を聴取し、内容の見直しや次回の検討項目について、大項目から気になる項目を抽出して説明、検討の機会を設けた。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
喜田 至	日本ソフトウェアデザイン(株)	2018/3/1～2019/2/28	③
津村 泰史	(株)和歌山印刷所	2018/3/1～2019/2/28	③
廣崎 清司	和歌山情報サービス産業協会	2018/3/1～2019/2/28	①
塚田 晃司	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	②
満田 成紀	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	②
郷間 博敏	(株)ジーアイソフト	2018/9/1～2019/8/31	③
田中 弘	(株)システムキューブ	2018/9/1～2019/8/31	③
三木 繁清	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校代表
日高 亜季	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校管理職
金島 東治	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校管理職
大橋 和矢	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	教務部長
江川 雄規	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	進路指導部
岩橋 恵	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	事務局長
矢部 修人	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	卒業生

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

毎年3月と9月の年2回実施するものとする。今年は平成30年3月28日、平成30年9月10日に実施した。
※委員等の欠席が3分の1以上となった場合は、開催日を起点として前後2週間まで変更するなどを許容し、随時委員会への出席を求めるなど、弾力的な体制をとっている。

(開催日時(実績))

第1回 平成30年3月28日 14:00～16:00

第2回 平成30年9月10日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年3月28日、組織委員会を組織して、議長を決めて協議したところ、以下のような意見が上がった。これらを次年度の教育課程の改善・工夫等に活用することを組織として決定した。(議事録より抜粋)

【教育課程編成の決定】

→「職業訓練実践校としての評価項目に沿って適正かどうかの判断」

項目◇防災マニュアル説明(Jアラート・地震・津波を追加。和歌山市消防局指導で避難・救助・AED・消火訓練実施)

◇外部機関への教員研修の充実(教育課程・学習指導)

和歌山情報サービス産業協会(WAKASA)へ再加入し、地元IT関連企業からの意見聴取の機会を図る。

新人教員研修マニュアルを作成(基本動作・心構え)

◇教育理念の浸透(校内掲示)

◇コミュニケーション能力の強化(例:和歌山大学ではアクティブ・ラーニング50パーセントを目標にしている)本校では授業アンケートから、学生からの科目担当者の評価アンケートを作成しているので、上位科目の教員のクラスを見学するところから始動する。

「授業参観制度」

◇3者面談(担任・保護者・学生)については、2者面談(担任・保護者)のみのものも次年度実施する。

◇退学率の引き下げ。10%未満になるように、教育相談部と担任が連携して対応する。

◇国際化について。留学生の受け入れが増えている為、留学生のニーズに対応したカリキュラムを作成する。具体的には日本語教員の雇用等。

平成30年9月28日、組織委員会を組織して評価委員会を実施し、半期分の報告を踏まえて以下のような意見が上がった。(議事録より抜粋)

【教育課程編成の決定】

→「職業訓練実践校としての評価項目に沿って半期分の報告を基にした意見交換」

全項目から◇自然災害が多発していることから、防災マニュアル説明(Jアラート・地震・津波を追加。和歌山市消防局指導で避難・救助・AED・消火訓練実施)

◇外部機関への教員派遣の充実(社会貢献の一環から、高校生への出張講座実施21校)

◇昨年退学率8%。今年度もこの数字を保てるよう、担任・教育相談部・臨床心理士が連携して対応する。→学内以外の機関を更に検討。

◇教育理念の浸透(校内掲示)→さらにカード化して携帯してもらう。

◇コミュニケーション能力の強化(例:和歌山大学ではアクティブ・ラーニング50パーセントを目標にしている)本校では授業アンケートから、学生からの科目担当者の評価アンケートを作成しているので、上位科目の教員のクラスを見学するところから始動する。

「授業参観制度」

◇3者面談(担任・保護者・学生)については、(担任・保護者)のみのものも次年度実施する。

◇退学率の引き下げ。10%未満になるように、教育相談部と担任が連携して対応する。

◇教育活動については、インターネットオンラインサービス25資格取得サポートを開始。また(株)ジーアイソフトの郷間社長からはIT企業に関わる為の物事の考え方の講義を実施した。10月には昨年に引き続き、八雲ソフトウェア㈱様からRubyの言語教育を予定している。

◇国際化については、留学生の受け入れが急増したため、生活サポートや経費面(アルバイト・住居)のサポートを行う。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業が望むプログラミング言語の学習を授業に取り入れ、即戦力になる実践的知識をカリキュラムに導入し、IT企業関係者の役員職員や、IT業界の、人事関係者、また地域の教育機関と共同し、教育課程を編成する。

当該業界が求めるスキルを分析し、最新の技術に触れ、高度な資格を目指し、希望する就職につくことを目標とする。

- ①グローバルな視点
- ②組織内で連携するコミュニケーション能力
- ③常に先進的な内容に取り組むプロジェクト能力

を人材育成方針のテーマとしながら、古典的IT技術の取得を目指すとともに、常に移り変わるIT技術に対応したカリキュラムを作成する。インターンシップ等にも積極的に参加させるとともに、企業説明会を学校内で年間60時間実施している。

また学内での関連企業等による授業の、生徒の学習成果の評価は、基本的には「学習の手引き」に基づいて行われ、成績・出席率・課題提出物・授業に取り組む姿勢等で、AからDまでで判定される。Dでは判定評定が付かず、単位は与えられない。短期で行われる授業に関しては、他のC言語（プログラミング言語系）の授業として扱われるため、教科の一部参加として成績は付けない。担任も教室内に立ち合い、授業への取り組む姿勢や、出席の確認を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業担当者による講習の受け入れ。カリキュラムへの反映。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。（その中で導入部分でCAD情報概論として3Dプリンターを使い、部品など設計能力を身に付ける。そして制御系技術を学習し、実際に部品を動かす。）	日本ソフトウェアデザイン(株)
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。（その中でプログラミングを行う上で、C言語を応用して、ゲームをつくる技術を修得する。）	(株)アーティフィス
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。（その中でRuby言語に特化したプログラミング実習を実施する。）	(株)八雲ソフトウェア
CG選択	CG選択はデザイン技術や専門ソフトの操作方法をカリキュラムに組み込む科目である。その中でゲームエンジニアに必要なPhotoshop、映像編集の能力実務的な能力を身に付ける。	(株)和歌山印刷所
システムの利用と開発	システムの利用と開発は、即実践できるシステム構築技術を「思考法」から導き出す。KJ法を使い、ものを考えだす思考力を培い、システム構築のアルゴリズムについて教授頂いた。不定期の講義の為、教科の一部参加として成績は付けない。担任も教室内に立ち合い、授業への取り組む姿勢や、出席の確認を行っている。	(株)ジーアイソフト

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

和歌山コンピュータビジネス専門学校教職員研修規定および教員組織運営規定に基づき、年初の研修計画に従い、学生が参加する企業の技術提供の場に専任教員が立ち合い、学生が興味を持った分野について研修会を行っている。
また授業の進め方やシラバスの作成方法などに関する研修を実施している。またその際、同分野の課程学科を設置している他の専門学校のカリキュラムを市場調査したうえで、常に授業方法の改善を工夫するよう教員に徹底させている。また学内で科目ごとのアンケートを実施し、教育課程編成委員会で決定の元、アンケート結果が良かった教員の授業について掲示を行い、授業参観制度を取り入れた。また 和歌山コンピュータビジネス専門学校研修実施計画表に基づき1月から3月に新人導入教育を行っている。また9月に実施される他校視察(今年度は夏休みを利用し、8月に実施)では、専門分野の最新技術を研鑽するため、学校職員が視察先を訪問し、報告を行う。
これらの研修は、教員による自己評価と学生による教員評価(科目毎)の実施結果をもとに、副校長より個々の教員に結果を示しつつ、改善に向けた具体的な指示を行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「サイバー犯罪を未然に防ぐためのセキュリティ対策を学ぼう」(連携企業等:和歌山県警)

期間:平成29年6月6日(火) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:和歌山県警におけるサイバー犯罪を未然に防ぐための、セキュリティ対策講座。校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。また教員自身が学生にサイバーパトロールの方法を広められるよう、研修が行われた。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:Razest(ゲーム会社))

期間:平成29年8月8日(火) 対象:IT科教員

内容:CG業界の仕事内容と同行、求められる人材像、CG教育に求められること。
模擬授業と先端のCG技術の紹介。これからのCG教育やよく使う手法などの研修を受けた。

研修名「システム構築のための考え方を学ぼう」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成29年9月5日(火) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:KJ法から、ものを考えだす思考力を培うコツを勉強し、システム構築のアルゴリズムを学ぶ。実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。

研修名「Ruby 言語の開発について」(連携企業等:八雲ソフトウェア㈱)

期間:平成29年11月7日(火)8日(水)9日(木) 対象:IT教員とIT1年生

内容:Rubyで開発を行っている企業が、開発言語のプログラミング実習を行う。昨年も実施しており、学生と教員がDocomoのDメニューを制作するRube 言語について研修を行った。今年度もアンケートの結果好評であったため、3日間に渡り11時間実施する。学生指導の後、授業評価を専任教員と企業とで行い、次年度の改善につなげる。また専門知識であるため、教員も技術を教授する。

※別途研修資料有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:㈱和歌山印刷所)

期間:平成29年6月1日(木) 対象:IT科教員

内容:事前にモチベーションの低下しているとみなされる科目と高いと思われる科目を、学生からの科目アンケートの結果を踏まえ、会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の使用頻度、用法、テキストの説明、検定受験対策等を、(授業参観制度)授業見学を行い、学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較検討する。また学生が目指す業界に通じた話を、授業内に盛り込んだ場合、学生強く興味を示すことから、企業人からの講話には、必ず担当教員が同席し、認識を深めるなどの研修を行った。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:経営者協会「凜の会」)

期間:平成29年8月9日(水) 対象:管理職

内容:和歌山県下の人口減少から、雇用の難しさについての管理者研修が行われた。構造変化の激しい時代、目に見えないものに価値がつく時代の中、いつまでも同じことをしていると会社も人も減衰し、法人は何のために存在するのかについて講演を受けた。

研修名「コーチング」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成30年3月15日(木) 対象:IT科教員

内容:目標に対して取るべき行動を質問形式で自ら選択させるのを促し自律的な選択により、有効な行動を誘発する手法。ロールプレイング形式で実習。技術の進捗や環境の激しい現在、支持なくとも自律的行動をする人材を養成する。マネージャーになるための訓練。誉める、注意する、心を開かせるリーダーの条件。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「サイバー犯罪を未然に防ぐためのセキュリティ対策を学ぼう」(連携企業等:和歌山県警)

期間:平成30年6月6日(水) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:昨年に引き続きサイバーボランティア委嘱式の後、和歌山県警におけるサイバー犯罪を未然に防ぐための、セキュリティ対策講座。校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。また教員自身が学生にサイバーパトロールの方法を広められるよう、研修の実施。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:デジタルハリウッドアカデミー)

期間:平成30年8月8日(水) 対象:IT科教員

内容:CG業界の仕事内容と同行、求められる人材像、CG教育に求められること。模擬授業と先端のCG技術の紹介。これからのCG教育やよく使う手法などの研修の実施。

研修名「システム構築のための考え方を学ぼう」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成30年9月6日(木) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:KJ法から、ものを考えだす思考力を培うコツを勉強し、システム構築のアルゴリズムを学ぶ。実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。

研修名「Ruby 言語の開発について」(連携企業等:八雲ソフトウェア㈱)

期間:平成30年11月7日(水)8日(木)9日(金) 予定 対象:IT教員とIT1年生

内容:Rubyで開発を行っている企業が、開発言語のプログラミング実習を行う。昨年は引き続きに実施しており、学生と教員がDocomoのDメニューを制作するRube 言語について研修を行った。今年度もアンケートの結果好評であったため、3日間に渡り11時間実施する。学生指導の後、授業評価を専任教員と企業とで行い、次年度の改善につなげる。また専門知識であるため、教員も技術を教授する。

※別途研修資料有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:㈱和歌山印刷所)

期間:平成30年6月1日(金) 対象:IT科教員

内容:昨年同様、事前にモチベーションの低下しているとみなされる科目と高いと思われる科目を、学生からの科目アンケートの結果を踏まえ、会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の使用頻度、用法、テキストの説明、検定受験対策等を、(授業参観制度)授業見学を行い、学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較検討する。また学生が目指す業界に通じた話を、授業内に盛り込んだ場合、学生強く興味を示すことから、企業人からの講話には、必ず担当教員が同席し、認識を深めるなどの研修を行う。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:宇都宮病院)

期間:平成30年8月8日(水) 対象:管理職

内容:和歌山市の人口減少から、どのように雇用を確保するか、企業努力による働き方改革について、宇都宮病院研修室で事務長が講演。マズローの5段階欲求等の説明から、従業員が満足して働くことができる環境の整え方、体制などが研修内容である。

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:和歌山大学)

期間:平成30年8月27日(月) 対象:IT科教員

内容:昨年に引き続きモチベーションの低下しているとみなされる科目と逆に高い科目を会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の活用方法、テキストの説明方法、検定受験対策等について、授業見学を行い学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較して原因を探り改善する。

研修名「コーチング」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成31年3月予定 対象:IT科教員

内容:目標に対して取るべき行動を質問形式で自ら選択させるのを促し自律的な選択により、有効な行動を誘発する手法。ロールプレイング形式で実習。技術の進捗や環境の激しい現在、支持なくとも自律的行動をする人材を養成する。マネージャーになるための訓練。誉める、注意する、心を開かせるリーダーの条件。

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「学校関係者評価」の大きな目的は、評価という共同作業を行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることである。学校教育目標に向かうベクトルを合わせることで、双方の協力を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・教育人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学習成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	学生支援・社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果(全体評価)

平成30年3月28日・平成30年9月10日の会議より

○指摘事項:教育理念の浸透状況はどうか。

理念などが学生や保護者、また教員に浸透しているのかが問われたため、学内に理念、学校の目的などを学校ロビー、教務室に掲示を行い、周知を図った。

○指摘事項:教員のスキル(ファンリテータースキル)等、向上しているか。

ファンリテータースキル等のスキル取得が議題にあがり、教師相互の授業力の向上を組織地して目指すことを目的に、各教科毎のアンケートを匿名で学生一人ひとりから集め、人気の高かった授業を教務室に掲示した。その後授業参観制度を実施し、教員が人気の高かった講義の見学を行った。

○指摘事項:地域との連携はできているか。

地域の連携において、積極的な関わりといった点が不足しているという指摘を受け、和歌山商工会議所主催「わかやま商工祭り」に学校としてブース参加し、学生の作品を展示した。

○指摘事項:不登校問題と退学率はどうなっているのか。

不登校の問題・退学率の問題点が議題にあがり、三者面談制度の他に特別な配慮を必要とする学生のためのカウンセリングルームの設置、臨床心理士と連携しての学生・保護者面談等、学校制度として整えた。また教育相談部では、担任以外の教員が学生の相談に応じることができる窓口メールを設置して、学生の心理的な問題の解決を図った。

○指摘事項:資格取得率についてはどうか。

資格取得率向上のため、各科目の受験スケジュールを学生一人ひとりに立てるよう、担任が指導し、達成率を見える化した。

○指摘事項:施設の老朽化問題についてはどうか。

施設の老朽化についての問題があったことで、エレベーターを新品に交換、また外壁補修工事の実施、壁紙の張替えや、サーバーやネットワーク環境の再構築を行った。また事務機器等(コピー機・電話)も交換し、新入職員が快適な環境で教育活動が行えるよう図った。

○指摘事項:学校を休んだための補講については同対策しているのか。

教員で随時対応することを前提として、次年度は更にオンデマンドで25資格受講できる企業を探し、次年度よりパソコン・タブレットを学生配布し、教育全体に浸透する。

システムエンジニアコース・ITエキスパートコース・ITビジネスコース

○指摘事項:地域との連携ができているか。

地域との連携部分において、積極的な関わりといった点が不足しているという指摘を受け、WAKASA和歌山情報サービス産業協会(和歌山のIT企業が多く加入する協会)へ復会し、地域の高校生へのプログラミング模擬授業を開始した。

○指摘事項:不登校問題にどう取り組んでいるか。

不登校の問題から、オンラインシステムで授業を配信することによって学生の勉強離れが起きないように、ITパスポート試験などの試験対策は、自宅等オンライン環境のある場所で実施できるように、オンライン授業の制度化を図った。

○指摘事項:資格取得もよいが、以前こちらの学校で採用した学生の方が総合力が高かった。コミュニケーション能力などプレゼン力や、開発力については、どう指導するのか。

資格試験も重要視する傍らで、コミュニケーション能力やものづくり能力(意欲)について、過去の学生よりも劣ってきてはいないかという意見が上がったため、卒業制作発表のプレゼン力、構成力を、担当教員で見直すよう学内で意見交換会が実施された。研究開発の場を通して企業の求める人材を育成する。またインターンシップへの積極的な参加を呼びかけ、職業をより身近に感じさせられるよう配慮した。

ITエキスパートコース

○指摘事項:作品の発表の機会をどうつくるか。

CAD製図を主要科目とするこのコースでは、新たに3Dプリンターの導入を行い、製図化したものを作品にプリントアウトできる環境を整え、制作した作品のロビー展示を行うなど、ものづくりへの意欲向上を図った。

コンピュータグラフィックスコース

○指摘事項:地域との連携ができているか。

地域との連携部分において、積極的な関わりといった点が不足していたことから、「わキャラまーけっと!」といった、和歌山をキャラクターで活性化することを目的とした企業人の催しに参加し、学校PRを行うとともに、コンピュータグラフィックスコース学生が地域商店のキャラクターデザインを手掛けるなど、地域連携を図った。

○指摘事項:CGコースの就職率について

コンピュータグラフィックスコースにはゲーム業界やアニメ業界を目指す学生が多いが、就職率が他の科に比べて厳しいため、進路指導を充実させ、大阪のゲーム業界の就職フェアへの参加や企業訪問を実施し、また和歌山の地元デザイン業界やパッケージ会社へのパンフレット配布を行った。ゲーム業界とデザイン業界、どちらにでも通用するよう、年間何らかのコンクールにクラス単位で取り組み、全業界に通用するポートフォリオ作りを目標に作品制作を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
喜田 至	日本ソフトウェアデザイン(株)	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
津村 泰史	(株)和歌山印刷所	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
廣崎 清司	和歌山情報サービス産業協会	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
塚田 晃司	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
満田 成紀	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
郷間 博敏	(株)ジーアイソフト	2018/9/1～2019/8/31	企業等委員
田中 弘	(株)システムキューブ	2018/9/1～2019/8/31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.myros.ac.jp/>

公表時期: H30年4月1日頃

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

年2回の評価委員会を開催するとともに、連携授業を行っていただく折に、意見交換会を実施している。

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・教育人材像
(2) 各学科等の教育	学校運営
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学習成果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育環境
(7) 学生納付金・修学支援	学生募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	法令の遵守
(10) 国際連携の状況	社会貢献
(11) その他	学生支援・社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.myros.ac.jp/>

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																							
和歌山コンピュータビジネス専門学校	平成25年4月1日	三木 繁清	〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田字堤下41-1 (電話) 073-474-0200																																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																							
和歌山コンピュータビジネス専門学校	1987/3/27	三木 繁清	〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田字堤下41-1 (電話) 073-474-0200																																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																					
工業	工業専門課程	IT科ITエキスパートコース		平成24年文部科学省 告示第2号	-																																					
学科の目的	コンピュータの設計やソフトウェア開発に必要な知識・スキルを身に付けた、クラウドコンピュータにも精通したプログラマーとして、社会で貢献できる人材を育てることを目的とする。																																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験 実技																																				
2年	昼間	2077時間	1230時間	847時間	0時間	0時間 0時間																																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数																																				
215人	178人	38人	10人	7人		17人																																				
学期制度	■1学期:4月1日~9月30日 ■2学期:10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験、出席状況																																						
長期休み	■学年始:4月1日~4月10日 ■夏季:7月13日~7月19日 ■秋季:10月29日~11月4日 ■冬季:12月21日~1月6日 ■学年末:3月18日~3月31日		卒業・進級条件	在学する学科において、取得科目の時間数850時間以上で進級とし、また取得科目の時間数合計が1700時間以上である条件の上に、卒業審査会議を期末に行い、校長がこれを認定する。																																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者への電話連絡と指導(自動メール送信・保護者連絡・担任指導・家庭訪問・年2回三者『保護者・学生・担任』面談)		課外活動	■課外活動の種類 「わかやま商工まつり」参加や、有志5企業団体による社会参加有り。 ■サークル活動: 有																																						
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) IT業界 (株)エンザントレイズ/㈱シーエスイー/和歌山ゼロックス(株)/ (株)ユアブレインズ/サントリービバレッジサービス(株)/日産プリンス和歌山販売(株)/㈱ぼん家具/ナビオコンピュータ(株)/㈱延田プライム/日本ソフトウェアデザイン(株)/㈱トラスト・ネクストソリューションズ) ■就職指導内容 業界との強い結びつきが本校の特徴である。毎年、和歌山県内はもちろん、全国から求人が寄せられ、多くの学生が全国各地で活躍している。創立31年目となるため、卒業生が多数のIT企業で活躍し、積み重ねた信頼の結果、新たな求人を生み出すという好循環を形成している。 ■卒業者数 13 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 : 92 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業者に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>②</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>MOS Wordスペシャリスト</td> <td>③</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>MOS Excelスペシャリスト</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>IPA修了試験</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>J検3級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>サーティファイ情報処理技術者試験3級</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>CAD利用技術者試験</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	情報セキュリティマネジメント試験	②	7	3	ITパスポート試験	②	9	6	MOS Wordスペシャリスト	③	7	7	MOS Excelスペシャリスト	③	0	0	IPA修了試験	③	0	0	J検3級	③	9	7	サーティファイ情報処理技術者試験3級	③	3	2	CAD利用技術者試験	③	6	4
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																							
情報セキュリティマネジメント試験	②	7	3																																							
ITパスポート試験	②	9	6																																							
MOS Wordスペシャリスト	③	7	7																																							
MOS Excelスペシャリスト	③	0	0																																							
IPA修了試験	③	0	0																																							
J検3級	③	9	7																																							
サーティファイ情報処理技術者試験3級	③	3	2																																							
CAD利用技術者試験	③	6	4																																							
中途退学の現状	■中途退学者 1名 5% 平成29年4月1日時点において、在学者21名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者20名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 NPO法人Peer心理教育サポートネットワークと連携し、プロのカウンセリングを受けることができる等、教育相談部と担任、また心理教育機関が連携して中退防止を図る。学生の希望により同学科内での転科を認め、進路相談に学校として取り組んでいる。																																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 AO入学奨学金:(早期に入学を決め、自己推薦を行ったものに対する奨学金2~10万円の補助有。) 兄弟姉妹奨学金制度:(過去に親兄弟、姉妹が本校の卒業生であることで、15000円の授業料免除がある。) 資格奨学生制度:(評定平均4.6以上の高校生、また基本情報技術者試験もしくは英検2級保持者には、特別指定校推薦枠で10万円の授業料免除がある。)																																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 評価団体:職業訓練実践課程編成委員会 受信年月:平成30年9月 ホームページ:http://www.myros.ac.jp/																																									
当該学科のホームページURL	http://www.myros.ac.jp/course/																																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が望むプログラミング言語の学習を授業に取り入れ、即戦力になる実践的知識をカリキュラムに導入している。IT企業関係者の役員職員や、IT企業の人事関係者、また地域の教育機関と共同し、教育課程を編成する。

当該業界が求めるスキルを分析し、

「自主独立・社会貢献」を理念として、グローバルな視点、組織内で連携するコミュニケーション能力、常に先進的な内容に取り組むプロジェクト能力を身に付け、

- ①最新の技術
- ②高度な資格
- ③希望する就職

を叶える人材育成を方針のテーマとし、教育課程編成委員会と連携して、地域に根付いた職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。

IT業界の産業振興の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れて反映することで、教育課程を改善する。

具体的な意見の聴取方法としては、アンケート方式や教育課程編成委員会の委員所属先以外への働きかけも積極的に行い、求める人材のヒアリングを組織的に行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は、専修学校和歌山コンピュータビジネス専門学校と企業関係者等の外部役員からなるものとし、互いの意見を積極的に交換し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。また、教育課程編成に関する意思決定の過程は、3月と9月に設け、以下の通り行っている。

3月

【メインテーマ】: 次年度の教育課程編成

【教育課程編成の基本方針決定・委員選任の妥当性・科目の概要】

まず企業関係者等の外部役員から業界に望まれる人材のヒアリングを行い、専攻分野に必要な人材スキル等の向上方法をとりまとめ、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。

この協議内容に基づき、科目と科目概要を決定し、教育課程の骨組みを完成させる。その際起こりうる問題点等もピックアップし、前年度起こった問題などの振り返りも行っている。

教育課程編成基本方針決定 → 教育課程編成の科目詳細決定 → 教育課程編成の決定委員会構成員である本校職員によって作成された仮案に基づいて、再度委員会で協議して、次年度の教育課程を決定する。

9月

【メインテーマ】: 教育課程編成の内容検討会

【教育課程編成の基本方針が実施できるかの報告と意見交換、次年度実践内容の決定事項確認】

3月の会議の内容を反映した教育課程が実践できたかどうか、評価項目に従って説明を行う。各項目に関連する学術機関や企業等委員から意見を聴取し、内容の見直しや次回の検討項目について、大項目から気になる項目を抽出して説明、検討の機会を設けた。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
喜田 至	日本ソフトウェアデザイン(株)	2018/3/1～2019/2/28	③
津村 泰史	(株)和歌山印刷所	2018/3/1～2019/2/28	③
廣崎 清司	和歌山情報サービス産業協会	2018/3/1～2019/2/28	①
塚田 晃司	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	②
満田 成紀	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	②
郷間 博敏	(株)ジーアイソフト	2018/9/1～2019/8/31	③
田中 弘	(株)システムキューブ	2018/9/1～2019/8/31	③
三木 繁清	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校代表
日高 亜季	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校管理職
金島 東治	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校管理職
大橋 和矢	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	教務部長
江川 雄規	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	進路指導部
岩橋 恵	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	事務局長
矢部 修人	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	卒業生

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

毎年3月と9月の年2回実施するものとする。今年度は平成30年3月28日、平成30年9月10日に実施した。
※委員等の欠席が3分の1以上となった場合は、開催日を起点として前後2週間まで変更するなどを許容し、随時委員会への出席を求めるなど、弾力的な体制をとっている。

(開催日時(実績))

第1回 平成30年3月28日 14:00～16:00

第2回 平成30年9月10日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年3月28日、組織委員会を組織して、議長を決めて協議したところ、以下のような意見が上がった。これらを次年度の教育課程の改善・工夫等に活用することを組織として決定した。(議事録より抜粋)

【教育課程編成の決定】

→「職業訓練実践校としての評価項目に沿って適正かどうかの判断」

項目◇防災マニュアル説明(Jアラート・地震・津波を追加。和歌山市消防局指導で避難・救助・AED・消火訓練実施)

◇外部機関への教員研修の充実(教育課程・学習指導)

和歌山情報サービス産業協会(WAKASA)へ再加入し、地元IT関連企業からの意見聴取の機会を図る。

新人教員研修マニュアルを作成(基本動作・心構え)

◇教育理念の浸透(校内掲示)

◇コミュニケーション能力の強化(例:和歌山大学ではアクティブ・ラーニング50パーセントを目標にしている)本校では授業アンケートから、学生からの科目担当者の評価アンケートを作成しているため、上位科目の教員のクラスを見学するところから始動する。

「授業参観制度」

◇3者面談(担任・保護者・学生)については、2者面談(担任・保護者)のみのもも次年度実施する。

◇退学率の引き下げ。10%未満になるように、教育相談部と担任が連携して対応する。

◇国際化については、留学生の受け入れが増えているため、留学生のニーズに対応したカリキュラムを作成する。具体的には日本語教員の雇用等。

平成30年9月28日、組織委員会を組織して評価委員会を実施し、半期分の報告を踏まえて以下のような意見が上がった。(議事録より抜粋)

【教育課程編成の決定】

→「職業訓練実践校としての評価項目に沿って半期分の報告を基にした意見交換」

全項目から◇自然災害が多発していることから、防災マニュアル説明(Jアラート・地震・津波を追加。和歌山市消防局指導で避難・救助・AED・消火訓練実施)

◇外部機関への教員派遣の充実(社会貢献の一環から、高校生への出張講座実施21校)

◇昨年退学率8%。今年度もこの数字を保てるよう、担任・教育相談部・臨床心理士が連携して対応する。→学内以外の機関を更に検討。

◇教育理念の浸透(校内掲示)→さらにカード化して携帯してもらおう。

◇コミュニケーション能力の強化(例:和歌山大学ではアクティブ・ラーニング50パーセントを目標にしている)本校では授業アンケートから、学生からの科目担当者の評価アンケートを作成しているため、上位科目の教員のクラスを見学するところから始動する。

「授業参観制度」

◇3者面談(担任・保護者・学生)については、(担任・保護者)のみのもも次年度実施する。

◇退学率の引き下げ。10%未満になるように、教育相談部と担任が連携して対応する。

◇教育活動については、インターネットオンラインサービス25資格取得サポートを開始。また(株)ジーアイソフトの郷間社長からはIT企業に関わる為の物事の考え方の講義を実施した。10月には昨年を引き続き、八雲ソフトウェア様からRubyの言語教育を予定している。

◇国際化については、留学生の受け入れが急増したため、生活サポートや経費面(アルバイト・住居)のサポートを行う。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業が望むプログラミング言語の学習を授業に取り入れ、即戦力になる実践的知識をカリキュラムに導入し、IT企業関係者の役員職員や、IT業界の、人事関係者、また地域の教育機関と共同し、教育課程を編成する。

当該業界が求めるスキルを分析し、最新の技術に触れ、高度な資格を目指し、希望する就職につくことを目標とする。

- ①グローバルな視点
- ②組織内で連携するコミュニケーション能力
- ③常に先進的な内容に取り組むプロジェクト能力

を人材育成方針のテーマとしながら、古典的IT技術の取得を目指すとともに、常に移り変わるIT技術に対応したカリキュラムを作成する。インターンシップ等にも積極的に参加させるとともに、企業説明会を学校内で年間60時間実施している。

また学内での関連企業等による授業の、生徒の学習成果の評価は、基本的には「学習の手引き」に基づいて行われ、成績・出席率・課題提出物・授業に取り組む姿勢等で、AからDまでで判定される。Dでは判定評定が付かず、単位は与えられない。短期で行われる授業に関しては、他のC言語(プログラミング言語系)の授業として扱われるため、教科の一部参加として成績は付けない。担任も教室内に立ち合い、授業への取り組む姿勢や、出席の確認を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業担当者による講習の受け入れ。カリキュラムへの反映。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。(その中で導入部分でCAD情報概論として3Dプリンターを使い、部品など設計能力を身に付ける。そして制御系技術を学習し、実際に部品を動かす。)	日本ソフトウェアデザイン(株)
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。(その中でプログラミングを行う上で、C言語を応用して、ゲームをつくる技術を修得する。)	(株)アーティフィス
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。(その中でRuby言語に特化したプログラミング実習を実施する。)	(株)八雲ソフトウェア
CG選択	CG選択はデザイン技術や専門ソフトの操作方法をカリキュラムに組み込む科目である。その中でゲームエンジニアに必要なPhotoshop、映像編集の能力実務的な能力を身に付ける。	(株)和歌山印刷所
システムの利用と開発	システムの利用と開発は、即実践できるシステム構築技術を「思考法」から導き出す。KJ法を使い、ものを考えだす思考力を培い、システム構築のアルゴリズムについて教授頂いた。不定期の講義の為、教科の一部参加として成績は付けない。担任も教室内に立ち合い、授業への取り組む姿勢や、出席の確認を行っている。	(株)ジーアイソフト

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

和歌山コンピュータビジネス専門学校教職員研修規定および教員組織運営規定に基づき、年初の研修計画に従い、学生が参加する企業の技術提供の場に専任教員が立ち合い、学生が興味を持った分野について研修会を行っている。また授業の進め方やシラバスの作成方法などに関する研修を実施している。またその際、同分野の課程学科を設置している他の専門学校のカリキュラムを市場調査したうえで、常に授業方法の改善を工夫するよう教員に徹底させている。また学内で科目ごとのアンケートを実施し、教育課程編成委員会で決定の元、アンケート結果が良かった教員の授業について掲示を行い、授業参観制度を取り入れた。また 和歌山コンピュータビジネス専門学校研修実施計画表に基づき1月から3月に新人導入教育を行っている。また9月に実施される他校視察(今年度は夏休みを利用し、8月に実施)では、専門分野の最新技術を研鑽するため、学校職員が視察先を訪問し、報告を行う。

これらの研修は、教員による自己評価と学生による教員評価(科目毎)の実施結果をもとに、副校長より個々の教員に結果を示しつつ、改善に向けた具体的な指示を行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「サイバー犯罪を未然に防ぐためのセキュリティ対策を学ぼう」(連携企業等:和歌山県警)

期間:平成29年6月6日(火) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:和歌山県警におけるサイバー犯罪を未然に防ぐための、セキュリティ対策講座。校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。また教員自身が学生にサイバーパトロールの方法を広められるよう、研修が行われた。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:Razest(ゲーム会社))

期間:平成29年8月8日(火) 対象:IT科教員

内容:CG業界の仕事内容と同行、求められる人材像、CG教育に求められること。模擬授業と先端のCG技術の紹介。これからのCG教育やよく使う手法などの研修を受けた。

研修名「システム構築のための考え方を学ぼう」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成29年9月5日(火) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:KJ法から、ものを考えだす思考力を培うコツを勉強し、システム構築のアルゴリズムを学ぶ。実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。

研修名「Ruby 言語の開発について」(連携企業等:八雲ソフトウェア㈱)

期間:平成29年11月7日(火)8日(水)9日(木) 対象:IT教員とIT1年生

内容:Rubyで開発を行っている企業が、開発言語のプログラミング実習を行う。昨年も実施しており、学生と教員がDocomoのDメニューを制作するRube 言語について研修を行った。今年度もアンケートの結果好評であったため、3日間に渡り11時間実施する。学生指導の後、授業評価を専任教員と企業とで行い、次年度の改善につなげる。また専門知識であるため、教員も技術を教授する。

※別途研修資料有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:㈱和歌山印刷所)

期間:平成29年6月1日(木) 対象:IT科教員

内容:事前にモチベーションの低下しているとみなされる科目と高いと思われる科目を、学生からの科目アンケートの結果を踏まえ、会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の使用頻度、用法、テキストの説明、検定受験対策等を、(授業参観制度)授業見学を行い、学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較検討する。また学生が目指す業界に通じた話を、授業内に盛り込んだ場合、学生強く興味を示すことから、企業人からの講話には、必ず担当教員が同席し、認識を深めるなどの研修を行った。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:経営者協会「凜の会」)

期間:平成29年8月9日(水) 対象:管理職

内容:和歌山県下の人口減少から、雇用の難しさについての管理者研修が行われた。構造変化の激しい時代、目に見えないものに価値がつく時代の中、いつまでも同じことをしていると会社も人も減衰し、法人は何のために存在するのかについて講演を受けた。

研修名「コーチング」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成30年3月15日(木) 対象:IT科教員

内容:目標に対して取るべき行動を質問形式で自ら選択させるのを促し自律的な選択により、有効な行動を誘発する手法。ロールプレイング形式で実習。技術の進捗や環境の激しい現在、支持なくとも自律的行動をする人材を養成する。マネージャーになるための訓練。誉める、注意する、心を開かせるリーダーの条件。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「サイバー犯罪を未然に防ぐためのセキュリティ対策を学ぼう」(連携企業等:和歌山県警)

期間:平成30年6月6日(水) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:昨年に引き続きサイバーボランティア委嘱式の後、和歌山県警におけるサイバー犯罪を未然に防ぐための、セキュリティ対策講座。校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。また教員自身が学生にサイバーパトロールの方法を広められるよう、研修の実施。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:デジタルハリウッドアカデミー)

期間:平成30年8月8日(水) 対象:IT科教員

内容:CG業界の仕事内容と同行、求められる人材像、CG教育に求められること。模擬授業と先端のCG技術の紹介。これからのCG教育やよく使う手法などの研修の実施。

研修名「システム構築のための考え方を学ぼう」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成30年9月6日(木) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:KJ法から、ものを考えだす思考力を培うコツを勉強し、システム構築のアルゴリズムを学ぶ。実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。

研修名「Ruby 言語の開発について」(連携企業等:八雲ソフトウェア㈱)

期間:平成30年11月7日(水)8日(木)9日(金) 予定 対象:IT教員とIT1年生

内容:Rubyで開発を行っている企業が、開発言語のプログラミング実習を行う。昨年は引き続きに実施しており、学生と教員がDocomoのDメニューを制作するRube言語について研修を行った。今年度もアンケートの結果好評であったため、3日間に渡り11時間実施する。学生指導の後、授業評価を専任教員と企業とで行い、次年度の改善につなげる。また専門知識であるため、教員も技術を教授する。

※別途研修資料有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:㈱和歌山印刷所)

期間:平成30年6月1日(金) 対象:IT科教員

内容:昨年同様、事前にモチベーションの低下しているとみなされる科目と高いと思われる科目を、学生からの科目アンケートの結果を踏まえ、会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の使用頻度、用法、テキストの説明、検定受験対策等を、(授業参観制度)授業見学を行い、学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較検討する。また学生が目指す業界に通じた話を、授業内に盛り込んだ場合、学生強く興味を示すことから、企業人からの講話には、必ず担当教員が同席し、認識を深めるなどの研修を行う。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:宇都宮病院)

期間:平成30年8月8日(水) 対象:管理職

内容:和歌山市の人口減少から、どのように雇用を確保するか、企業努力による働き方改革について、宇都宮病院研修室で事務長が講演。マズローの5段階欲求等の説明から、従業員が満足して働くことができる環境の整え方、体制などが研修内容である。

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:和歌山大学)

期間:平成30年8月27日(月) 対象:IT科教員

内容:昨年に引き続きモチベーションの低下しているとみなされる科目と逆に高い科目を会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の活用方法、テキストの説明方法、検定受験対策等について、授業見学を行い学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較して原因を探り改善する。

研修名「コーチング」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成31年3月予定 対象:IT科教員

内容:目標に対して取るべき行動を質問形式で自ら選択させるのを促し自律的な選択により、有効な行動を誘発する手法。ロールプレイング形式で実習。技術の進捗や環境の激しい現在、支持なくとも自律的行動をする人材を養成する。マネージャーになるための訓練。誉める、注意する、心を開かせるリーダーの条件。

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「学校関係者評価」の大きな目的は、評価という共同作業を行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることである。学校教育目標に向かうベクトルを合わせることで、双方の協力を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・教育人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学習成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	学生支援・社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果(全体評価)

平成30年3月28日・平成30年9月10日の会議より

○指摘事項:教育理念の浸透状況はどうか。

理念などが学生や保護者、また教員に浸透しているのかどうかを問われたため、学内に理念、学校の目的などを学校ロビー、教務室に掲示を行い、周知を図った。

○指摘事項:教員のスキル(ファシリテータースキル)等、向上しているか。

ファシリテータースキル等のスキル取得が議題にあがり、教師相互の授業力の向上を組織地して目指すことを目的に、各教科毎のアンケートを匿名で学生一人ひとりから集め、人気の高かった授業を教務室に掲示した。その後授業参観制度を実施し、教員が人気の高かった講義の見学を行った。

○指摘事項:地域との連携はできているか。

地域の連携において、積極的な関わりといった点が不足しているという指摘を受け、和歌山商工会議所主催「わかやま商工祭り」に学校としてブース参加し、学生の作品を展示した。

○指摘事項:不登校問題と退学率はどうなっているのか。

不登校の問題・退学率の問題点が議題にあがり、三者面談制度の他に特別な配慮を必要とする学生のためのカウンセリングルームの設置、臨床心理士と連携しての学生・保護者面談等、学校制度として整えた。また教育相談部では、担任以外の教員が学生の相談に応じることができる窓口メールを設置して、学生の心理的な問題の解決を図った。

○指摘事項:資格取得率についてはどうか。

資格取得率向上のため、各科目の受験スケジュールを学生一人ひとりに立てるよう、担任が指導し、達成率を見える化した。

○指摘事項:施設の老朽化問題についてはどうか。

施設の老朽化についての問題があったことで、エレベーターを新品に交換、また外壁補修工事の実施、壁紙の張替えや、サーバーやネットワーク環境の再構築を行った。また事務機器等(コピー機・電話)も交換し、新入職員が快適な環境で教育活動が行えるよう図った。

○指摘事項:学校を休んだための補講については同対策しているのか。

教員で随時対応することを前提として、次年度は更にオンデマンドで25資格受講できる企業を探し、次年度よりパソコン・タブレットを学生配布し、教育全体に浸透する。

システムエンジニアコース・ITエキスパートコース・ITビジネスコース

○指摘事項:地域との連携ができていますか。

地域との連携部分において、積極的な関わりといった点が不足していたころから、WAKASA和歌山情報サービス産業協会(和歌山のIT企業が多く加入する協会)へ復会し、地域の高校生へのプログラミング模擬授業を開始した。

○指摘事項:不登校問題にどう取り組んでいるか。

不登校の問題から、オンラインシステムで授業を配信することによって学生の勉強離れが起きないように、ITパスポート試験などの試験対策は、自宅等オンライン環境のある場所で実施できるように、オンライン授業の制度化を図った。

○指摘事項:資格取得もよいが、以前こちらの学校で採用した学生の方が総合力が高かった。コミュニケーション能力などプレゼン力や、開発力については、どう指導するのか。

資格試験も重要視する傍らで、コミュニケーション能力やものづくり能力(意欲)について、過去の学生よりも劣ってきてはいないかという意見が上がったため、卒業制作発表のプレゼン力、構成力を、担当教員で見直すよう学内で意見交換会が実施された。研究開発の場を通して企業の求める人材を育成する。またインターンシップへの積極的な参加を呼びかけ、職業をより身近に感じさせられるよう配慮した。

ITエキスパートコース

○指摘事項:作品の発表の機会をどうつくるか。

CAD製図を主要科目とするこのコースでは、新たに3Dプリンターの導入を行い、製図化したものを作品にプリントアウトできる環境を整え、制作した作品のロビー展示を行うなど、ものづくりへの意欲向上を図った。

コンピュータグラフィックスコース

○指摘事項:地域との連携ができていますか。

地域との連携部分において、積極的な関わりといった点が不足しているという指摘を受け、「わキャラまーけっと!」といった、和歌山をキャラクターで活性化することを目的とした企業人の催しに参加し、学校PRを行うとともに、コンピュータグラフィックスコース学生が地域商店のキャラクターデザインを手掛けるなど、地域連携を図った。

○指摘事項:CGコースの就職率について

コンピュータグラフィックスコースにはゲーム業界やアニメ業界を目指す学生が多いが、就職率が他の科に比べて厳しいため、進路指導を充実させ、大阪のゲーム業界の就職フェアへの参加や企業訪問を実施し、また和歌山の地元デザイン業界やパッケージ会社へのパンフレット配布を行った。ゲーム業界とデザイン業界、どちらにでも通用するよう、年間何らかのコンクールにクラス単位で取り組み、全業界に通用するポートフォリオ作りを目標に作品制作を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
喜田 至	日本ソフトウェアデザイン(株)	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
津村 泰史	(株)和歌山印刷所	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
廣崎 清司	和歌山情報サービス産業協会	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
塚田 晃司	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
満田 成紀	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
郷間 博敏	(株)ジーアイソフト	2018/9/1～2019/8/31	企業等委員
田中 弘	(株)システムキューブ	2018/9/1～2019/8/31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.myros.ac.jp/>

公表時期: H30年4月1日頃

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

年2回の評価委員会を開催するとともに、連携授業を行っていただく折に、意見交換会を実施している。

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・教育人材像
(2) 各学科等の教育	学校運営
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学習成果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育環境
(7) 学生納付金・修学支援	学生募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	法令の遵守
(10) 国際連携の状況	社会貢献
(11) その他	学生支援・社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.myros.ac.jp/>

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																											
和歌山コンピュータビジネス専門学校	平成25年4月1日	三木 繁清	〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田字堤下41-1 (電話) 073-474-0200																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																											
和歌山コンピュータビジネス専門学校	1987/3/27	三木 繁清	〒640-8341 和歌山県和歌山市黒田字堤下41-1 (電話) 073-474-0200																											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																									
工業	工業専門課程	IT科コンピュータグラフィックスコース		平成24年文部科学省告示第2号	-																									
学科の目的	コンピュータの設計やソフトウェア開発に必要な知識・スキルを身に付けた、クラウドコンピュータにも精通したプログラマーとして、社会で貢献できる人材を育てることを目的とする。																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験 実技																								
2年	昼間	2160時間	1210時間	950時間	0時間	0時間 0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
215人	178人	38人	10人	7人	17人																									
学期制度	■1学期:4月1日~9月30日 ■2学期:10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験、出席状況																									
長期休み	■学年始:4月1日~4月10日 ■夏季:7月13日~7月19日 ■秋季:10月29日~11月4日 ■冬季:12月21日~1月6日 ■学年末:3月18日~3月31日			卒業・進級条件	在学する学科において、取得科目の時間数850時間以上で進級とし、また取得科目の時間数合計が1700時間以上である条件の上に、卒業審査会議を期末に行い、校長がこれを認定する。																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者への電話連絡と指導(自動メール送信・保護者連絡・担任指導・家庭訪問・年2回三者『保護者・学生・担任』面談)			課外活動	■課外活動の種類 「わかやま商工まつり」参加や、融資5企業団体による社会参加有り。 ■サークル活動: 有																									
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) IT業界 (㈱ぼん家具/日本郵便㈱/紀州総合印刷㈱/三菱重工業㈱/㈱西沢インダストリー/日吉染業㈱/㈱ふみこ農園) ■就職指導内容 業界との強い結びつきが本校の特徴である。毎年、和歌山県内はもちろん、全国から求人が寄せられ、多くの学生が全国各地で活躍している。創立31年目となるため、卒業生が多数のIT企業で活躍し、積み重ねた信頼の結果、新たな求人を生み出すという好循環を形成している。 ■卒業生数 7 人 ■就職希望者数 6 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 1人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MOS Wordスペシャリスト</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>MOS Excelスペシャリスト</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>色彩3級</td> <td>③</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Photoshopクリエイタースタンダード</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>illustratorクリエイタースタンダード</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> ※別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 近畿動画フェスタ in近畿2017入賞		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	MOS Wordスペシャリスト	③	4	4	MOS Excelスペシャリスト	③	0	0	色彩3級	③	7	6	Photoshopクリエイタースタンダード	③	4	4	illustratorクリエイタースタンダード	③	4	4
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																											
MOS Wordスペシャリスト	③	4	4																											
MOS Excelスペシャリスト	③	0	0																											
色彩3級	③	7	6																											
Photoshopクリエイタースタンダード	③	4	4																											
illustratorクリエイタースタンダード	③	4	4																											
中途退学の現状	■中途退学者 3名 21% 平成29年4月1日時点において、在学者14名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者11名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 NPO法人Peer心理教育サポートネットワークと連携し、プロのカウンセリングを受けることができる等、教育相談部と担任、また心理教育機関が連携して中退防止を図る。学生の希望により同学科内での転科を認め、進路相談に学校として取り組んでいる。																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 AO入学奨学金:(早期に入学を決め、自己推薦を行ったものに対する奨学金2~10万円の補助有。) 兄弟姉妹奨学金制度:(過去に親兄弟、姉妹が本校の卒業生であることで、15000円の授業料免除がある。) 資格奨学生制度:(評定平均4.6以上の高校生、また基本情報技術者試験もしくは英検2級保持者には、特別指定校推薦枠で10万円の授業料免除がある。)																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 評価団体:職業訓練実践課程編成委員会 受信年月:平成30年9月 ホームページ:http://www.myros.ac.jp/																													
当該学科のホームページURL	http://www.myros.ac.jp/course/																													

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が望むプログラミング言語の学習を授業に取り入れ、即戦力になる実践的知識をカリキュラムに導入している。IT企業関係者の役員職員や、IT企業の人事関係者、また地域の教育機関と共同し、教育課程を編成する。

当該業界が求めるスキルを分析し、

「自主独立・社会貢献」を理念として、グローバルな視点、組織内で連携するコミュニケーション能力、常に先進的な内容に取り組むプロジェクト能力を身に付け、

- ①最新の技術
- ②高度な資格
- ③希望する就職

を叶える人材育成を方針のテーマとし、教育課程編成委員会と連携して、地域に根付いた職業教育を通じて自立した職業人育成を目指すような教育課程を編成する。

IT業界の産業振興の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れて反映することで、教育課程を改善する。

具体的な意見の聴取方法としては、アンケート方式や教育課程編成委員会の委員所属先以外への働きかけも積極的に行い、求める人材のヒアリングを組織的に行っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は、専修学校和歌山コンピュータビジネス専門学校と企業関係者等の外部役員からなるものとし、互いの意見を積極的に交換し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。また、教育課程編成に関する意思決定の過程は、3月と9月に設け、以下の通り行っている。

3月

【メインテーマ】:次年度の教育課程編成

【教育課程編成の基本方針決定・委員選任の妥当性・科目の概要】

まず企業関係者等の外部役員から業界に望まれる人材のヒアリングを行い、専攻分野に必要な人材スキル等の向上方法をとりまとめ、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。

この協議内容に基づき、科目と科目概要を決定し、教育課程の骨組みを完成させる。その際起こりうる問題点等もピックアップし、前年度起こった問題などの振り返りも行っている。

教育課程編成基本方針決定 → 教育課程編成の科目詳細決定 → 教育課程編成の決定委員会構成員である本校職員によって作成された仮案に基づいて、再度委員会で協議して、次年度の教育課程を決定する。

9月

【メインテーマ】:教育課程編成の内容検討会

【教育課程編成の基本方針が実施できるかの報告と意見交換、次年度実践内容の決定事項確認】

3月の会議の内容を反映した教育課程が実践できたかどうか、評価項目に従って説明を行う。各項目に関連する学術機関や企業等委員から意見を聴取し、内容の見直しや次回の検討項目について、大項目から気になる項目を抽出して説明、検討の機会を設けた。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
喜田 至	日本ソフトウェアデザイン(株)	2018/3/1～2019/2/28	③
津村 泰史	(株)和歌山印刷所	2018/3/1～2019/2/28	③
廣崎 清司	和歌山情報サービス産業協会	2018/3/1～2019/2/28	①
塚田 晃司	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	②
満田 成紀	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	②
郷間 博敏	(株)ジーアイソフト	2018/9/1～2019/8/31	③
田中 弘	(株)システムキューブ	2018/9/1～2019/8/31	③
三木 繁清	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校代表
日高 亜季	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校管理職
金島 東治	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	学校管理職
大橋 和矢	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	教務部長
江川 雄規	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	進路指導部
岩橋 恵	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	事務局長
矢部 修人	和歌山コンピュータビジネス専門学校	2018/3/1～2019/2/28	卒業生

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

毎年3月と9月の年2回実施するものとする。今年度は平成30年3月28日、平成30年9月10日に実施した。
※委員等の欠席が3分の1以上となった場合は、開催日を起点として前後2週間まで変更するなどを許容し、随時委員会への出席を求めるなど、弾力的な体制をとっている。

(開催日時(実績))

第1回 平成30年3月28日 14:00～16:00

第2回 平成30年9月10日 10:00～12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年3月28日、組織委員会を組織して、議長を決めて協議したところ、以下のような意見が上がった。これらを次年度の教育課程の改善・工夫等に活用することを組織として決定した。(議事録より抜粋)

【教育課程編成の決定】

→「職業訓練実践校としての評価項目に沿って適正かどうかの判断」

項目◇防災マニュアル説明(Jアラート・地震・津波を追加。和歌山市消防局指導で避難・救助・AED・消火訓練実施)

◇外部機関への教員研修の充実(教育課程・学習指導)

和歌山情報サービス産業協会(WAKASA)へ再加入し、地元IT関連企業からの意見聴取の機会を図る。

新人教員研修マニュアルを作成(基本動作・心構え)

◇教育理念の浸透(校内掲示)

◇コミュニケーション能力の強化(例:和歌山大学ではアクティブ・ラーニング50パーセントを目標にしている)本校では授業アンケートから、学生からの科目担当者の評価アンケートを作成しているため、上位科目の教員のクラスを見学するところから始動する。

「授業参観制度」

◇3者面談(担任・保護者・学生)については、2者面談(担任・保護者)のみのもも次年度実施する。

◇退学率の引き下げ。10%未満になるように、教育相談部と担任が連携して対応する。

◇国際化については、留学生の受け入れが増えているため、留学生のニーズに対応したカリキュラムを作成する。具体的には日本語教員の雇用等。

平成30年9月28日、組織委員会を組織して評価委員会を実施し、半期分の報告を踏まえて以下のような意見が上がった。(議事録より抜粋)

【教育課程編成の決定】

→「職業訓練実践校としての評価項目に沿って半期分の報告を基にした意見交換」

全項目から◇自然災害が多発していることから、防災マニュアル説明(Jアラート・地震・津波を追加。和歌山市消防局指導で避難・救助・AED・消火訓練実施)

◇外部機関への教員派遣の充実(社会貢献の一環から、高校生への出張講座実施21校)

◇昨年退学率8%。今年度もこの数字を保てるよう、担任・教育相談部・臨床心理士が連携して対応する。→学内以外の機関を更に検討。

◇教育理念の浸透(校内掲示)→さらにカード化して携帯してもらおう。

◇コミュニケーション能力の強化(例:和歌山大学ではアクティブ・ラーニング50パーセントを目標にしている)本校では授業アンケートから、学生からの科目担当者の評価アンケートを作成しているため、上位科目の教員のクラスを見学するところから始動する。

「授業参観制度」

◇3者面談(担任・保護者・学生)については、(担任・保護者)のみのもも次年度実施する。

◇退学率の引き下げ。10%未満になるように、教育相談部と担任が連携して対応する。

◇教育活動については、インターネットオンラインサービス25資格取得サポートを開始。また(株)ジーアイソフトの郷間社長からはIT企業に関わる為の物事の考え方の講義を実施した。10月には昨年を引き続き、八雲ソフトウェア様からRubyの言語教育を予定している。

◇国際化については、留学生の受け入れが急増したため、生活サポートや経費面(アルバイト・住居)のサポートを行う。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業が望むプログラミング言語の学習を授業に取り入れ、即戦力になる実践的知識をカリキュラムに導入し、IT企業関係者の役員職員や、IT業界の、人事関係者、また地域の教育機関と共同し、教育課程を編成する。

当該業界が求めるスキルを分析し、最新の技術に触れ、高度な資格を目指し、希望する就職につくことを目標とする。

①グローバルな視点

②組織内で連携するコミュニケーション能力

③常に先進的な内容に取り組むプロジェクト能力

を人材育成方針のテーマとしながら、古典的IT技術の取得を目指すとともに、常に移り変わるIT技術に対応したカリキュラムを作成する。インターンシップ等にも積極的に参加させるとともに、企業説明会を学校内で年間60時間実施している。

また校内での関連企業等による授業の、生徒の学習成果の評価は、基本的には「学習の手引き」に基づいて行われ、成績・出席率・課題提出物・授業に取り組む姿勢等で、AからDまでで判定される。Dでは判定評定が付かず、単位は与えられない。短期で行われる授業に関しては、他のC言語（プログラミング言語系）の授業として扱われるため、教科の一部参加として成績は付けない。担任も教室内に立ち合い、授業への取り組む姿勢や、出席の確認を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業担当者による講習の受け入れ。カリキュラムへの反映。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。（その中で導入部分でCAD情報概論として3Dプリンターを使い、部品など設計能力を身に付ける。そして制御系技術を学習し、実際に部品を動かす。）	日本ソフトウェアデザイン㈱
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。（その中でプログラミングを行う上で、C言語を応用して、ゲームをつくる技術を修得する。）	㈱アーティフィス
情報演習Ⅰ、情報演習Ⅱ	情報演習Ⅰ・情報演習Ⅱは、即実践できるプログラミング技術を修得させる科目である。（その中でRuby言語に特化したプログラミング実習を実施する。）	㈱八雲ソフトウェア
CG選択	CG選択はデザイン技術や専門ソフトの操作方法をカリキュラムに組み込む科目である。その中でゲームエンジニアに必要なPhotoshop、映像編集の能力実務的な能力を身に付ける。	㈱和歌山印刷所
システムの利用と開発	システムの利用と開発は、即実践できるシステム構築技術を「思考法」から導き出す。KJ法を使い、ものを考えだす思考力を培い、システム構築のアルゴリズムについて教授頂いた。不定期の講義の為、教科の一部参加として成績は付けない。担任も教室内に立ち合い、授業への取り組む姿勢や、出席の確認を行っている。	㈱ジーアイソフト

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

和歌山コンピュータビジネス専門学校教職員研修規定および教員組織運営規定に基づき、年初の研修計画に従い、学生が参加する企業の技術提供の場に専任教員が立ち合い、学生が興味を持った分野について研修会を行っている。

また授業の進め方やシラバスの作成方法などに関する研修を実施している。またその際、同分野の課程学科を設置している他の専門学校のカリキュラムを市場調査したうえで、常に授業方法の改善を工夫するよう教員に徹底させている。また学内で科目ごとのアンケートを実施し、教育課程編成委員会で決定の元、アンケート結果が良かった教員の授業について掲示を行い、授業参観制度を取り入れた。また 和歌山コンピュータビジネス専門学校研修実施計画表に基づき1月から3月に新人導入教育を行っている。また9月に実施される他校視察(今年度は夏休みを利用し、8月に実施)では、専門分野の最新技術を研鑽するため、学校職員が視察先を訪問し、報告を行う。

これらの研修は、教員による自己評価と学生による教員評価(科目毎)の実施結果をもとに、副校長より個々の教員に結果を示しつつ、改善に向けた具体的な指示を行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「サイバー犯罪を未然に防ぐためのセキュリティ対策を学ぼう」(連携企業等:和歌山県警)

期間:平成29年6月6日(火) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:和歌山県警におけるサイバー犯罪を未然に防ぐための、セキュリティ対策講座。校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。また教員自身が学生にサイバーパトロールの方法を広められるよう、研修が行われた。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:Razest(ゲーム会社))

期間:平成29年8月8日(火) 対象:IT科教員

内容:CG業界の仕事内容と同行、求められる人材像、CG教育に求められること。模擬授業と先端のCG技術の紹介。これからのCG教育やよく使う手法などの研修を受けた。

研修名「システム構築のための考え方を学ぼう」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成29年9月5日(火) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:KJ法から、ものを考えだす思考力を培うコツを勉強し、システム構築のアルゴリズムを学ぶ。実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。

研修名「Ruby 言語の開発について」(連携企業等:八雲ソフトウェア㈱)

期間:平成29年11月7日(火)8日(水)9日(木) 対象:IT教員とIT1年生

内容:Rubyで開発を行っている企業が、開発言語のプログラミング実習を行う。昨年も実施しており、学生と教員がDocomoのDメニューを制作するRube 言語について研修を行った。今年度もアンケートの結果好評であったため、3日間に渡り11時間実施する。学生指導の後、授業評価を専任教員と企業とで行い、次年度の改善につなげる。また専門知識であるため、教員も技術を教授する。

※別途研修資料有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:㈱和歌山印刷所)

期間:平成29年6月1日(木) 対象:IT科教員

内容:事前にモチベーションの低下しているとみなされる科目と高いと思われる科目を、学生からの科目アンケートの結果を踏まえ、会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の使用頻度、用法、テキストの説明、検定受験対策等を、(授業参観制度)授業見学を行い、学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較検討する。また学生が目指す業界に通じた話を、授業内に盛り込んだ場合、学生強く興味を示すことから、企業人からの講話には、必ず担当教員が同席し、認識を深めるなどの研修を行った。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:経営者協会「凜の会」)

期間:平成29年8月9日(水) 対象:管理職

内容:和歌山県下の人口減少から、雇用の難しさについての管理者研修が行われた。構造変化の激しい時代、目に見えないものに価値がつく時代の中、いつまでも同じことをしていると会社も人も減衰し、法人は何のために存在するのかについて講演を受けた。

研修名「コーチング」(連携企業等:㈱ジーアイソフト)

期間:平成30年3月15日(木) 対象:IT科教員

内容:目標に対して取るべき行動を質問形式で自ら選択させるのを促し自律的な選択により、有効な行動を誘発する手法。ロールプレイング形式で実習。技術の進捗や環境の激しい現在、支持なくとも自律的行動をする人材を養成する。マネージャーになるための訓練。誉める、注意する、心を開かせるリーダーの条件。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「サイバー犯罪を未然に防ぐためのセキュリティ対策を学ぼう」(連携企業等:和歌山県警)

期間:平成30年6月6日(水) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:昨年に引き続きサイバーボランティア委嘱式の後、和歌山県警におけるサイバー犯罪を未然に防ぐための、セキュリティ対策講座。校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。また教員自身が学生にサイバーパトロールの方法を広められるよう、研修の実施。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:デジタルハリウッドアカデミー)

期間:平成30年8月8日(水) 対象:IT科教員

内容:CG業界の仕事内容と同行、求められる人材像、CG教育に求められること。模擬授業と先端のCG技術の紹介。これからのCG教育やよく使う手法などの研修の実施。

研修名「システム構築のための考え方を学ぼう」(連携企業等:(株)ジーアイソフト)

期間:平成30年9月6日(木) 対象:指導教員およびIT科学生

内容:KJ法から、ものを考えだす思考力を培うコツを勉強し、システム構築のアルゴリズムを学ぶ。実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学習成果の評価方法などを、明確化させておく。実習期間が終われば、反省会を行い、学生の学習意欲や興味・関心の高さについての検討をする。

研修名「Ruby 言語の開発について」(連携企業等:八雲ソフトウェア(株))

期間:平成30年11月7日(水)8日(木)9日(金) 予定 対象:IT教員とIT1年生

内容:Rubyで開発を行っている企業が、開発言語のプログラミング実習を行う。昨年は引き続きに実施しており、学生と教員がDocomoのDメニューを制作するRube言語について研修を行った。今年度もアンケートの結果好評であったため、3日間に渡り11時間実施する。学生指導の後、授業評価を専任教員と企業とで行い、次年度の改善につなげる。また専門知識であるため、教員も技術を教授する。

※別途研修資料有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:(株)和歌山印刷所)

期間:平成30年6月1日(金) 対象:IT科教員

内容:昨年同様、事前にモチベーションの低下しているとみなされる科目と高いと思われる科目を、学生からの科目アンケートの結果を踏まえ、会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の使用頻度、用法、テキストの説明、検定受験対策等を、(授業参観制度)授業見学を行い、学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較検討する。また学生が目指す業界に通じた話を、授業内に盛り込んだ場合、学生強く興味を示すことから、企業人からの講話には、必ず担当教員が同席し、認識を深めるなどの研修を行う。

研修名「他校視察と企業ヒアリング検討会」(連携企業等:宇都宮病院)

期間:平成30年8月8日(水) 対象:管理職

内容:和歌山市の人口減少から、どのように雇用を確保するか、企業努力による働き方改革について、宇都宮病院研修室で事務長が講演。マズローの5段階欲求等の説明から、従業員が満足して働くことができる環境の整え方、体制などが研修内容である。

研修名「学生モチベーション維持研修」(連携企業等:和歌山大学)

期間:平成30年8月27日(月) 対象:IT科教員

内容:昨年に引き続きモチベーションの低下しているとみなされる科目と逆に高い科目を会議において選定し、板書の書き方、パソコン等の機器の活用方法、テキストの説明方法、検定受験対策等について、授業見学を行い学習意欲や興味、関心等がどのように維持されているか比較して原因を探り改善する。

研修名「コーチング」(連携企業等:(株)ジーアイソフト)

期間:平成31年3月予定 対象:IT科教員

内容:目標に対して取るべき行動を質問形式で自ら選択させるのを促し自律的な選択により、有効な行動を誘発する手法。ロールプレイング形式で実習。技術の進捗や環境の激しい現在、支持なくとも自律的行動をする人材を養成する。マネージャーになるための訓練。誉める、注意する、心を開かせるリーダーの条件。

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「学校関係者評価」の大きな目的は、評価という共同作業を行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることである。学校教育目標に向かうベクトルを合わせることで、双方の協力を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・教育人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学習成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	学生支援・社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果(全体評価)

平成30年3月28日・平成30年9月10日の会議より

○指摘事項:教育理念の浸透状況はどうか。

理念などが学生や保護者、また教員に浸透しているのかが問われたため、学内に理念、学校の目的などを学校ロビー、教務室に掲示を行い、周知を図った。

○指摘事項:教員のスキル(ファンリテータースキル)等、向上しているか。

ファンリテータースキル等のスキル取得が議題にあがり、教師相互の授業力の向上を組織地して目指すことを目的に、各教科毎のアンケートを匿名で学生一人ひとりから集め、人気の高かった授業を教務室に掲示した。その後授業参観制度を実施し、教員が人気の高かった講義の見学を行った。

○指摘事項:地域との連携はできているか。

地域の連携において、積極的な関わりといった点が不足しているという指摘を受け、和歌山商工会議所主催「わかやま商工祭り」に学校としてブース参加し、学生の作品を展示した。

○指摘事項:不登校問題と退学率はどうなっているのか。

不登校の問題・退学率の問題点が議題にあがり、三者面談制度の他に特別な配慮を必要とする学生のためのカウンセリングルームの設置、臨床心理士と連携しての学生・保護者面談等、学校制度として整えた。また教育相談部では、担任以外の教員が学生の相談に応じることができる窓口メールを設置して、学生の心理的な問題の解決を図った。

○指摘事項:資格取得率についてはどうか。

資格取得率向上のため、各科目の受験スケジュールを学生一人ひとりに立てるよう、担任が指導し、達成率を見える化した。

○指摘事項:施設の老朽化問題についてはどうか。

施設の老朽化についての問題があったことで、エレベーターを新品に交換、また外壁補修工事の実施、壁紙の張替えや、サーバーやネットワーク環境の再構築を行った。また事務機器等(コピー機・電話)も交換し、新入職員が快適な環境で教育活動が行えるよう図った。

○指摘事項:学校を休んだための補講については同対策しているのか。

教員で随時対応することを前提として、次年度は更にオンデマンドで25資格受講できる企業を探し、次年度よりパソコン・タブレットを学生配布し、教育全体に浸透する。

システムエンジニアコース・ITエキスパートコース・ITビジネスコース

○指摘事項:地域との連携ができていないか。

地域との連携部分において、積極的な関わりといった点が不足していたころから、WAKASA和歌山情報サービス産業協会(和歌山のIT企業が多く加入する協会)へ復会し、地域の高校生へのプログラミング模擬授業を開始した。

○指摘事項:不登校問題にどう取り組んでいるか。

不登校の問題から、オンラインシステムで授業を配信することによって学生の勉強離れが起きないように、ITパスポート試験などの試験対策は、自宅等オンライン環境のある場所で実施できるように、オンライン授業の制度化を図った。

○指摘事項:資格取得もよいが、以前こちらの学校で採用した学生の方が総合力が高かった。コミュニケーション能力などプレゼン力や、開発力については、どう指導するのか。

資格試験も重要視する傍らで、コミュニケーション能力やものづくり能力(意欲)について、過去の学生よりも劣ってきてはいないかという意見が上がったため、卒業制作発表のプレゼン力、構成力を、担当教員で見直すよう学内で意見交換会が実施された。研究開発の場を通して企業の求める人材を育成する。またインターンシップへの積極的な参加を呼びかけ、職業をより身近に感じさせられるよう配慮した。

ITエキスパートコース

○指摘事項:作品の発表の機会をどうつくるか。

CAD製図を主要科目とするこのコースでは、新たに3Dプリンターの導入を行い、製図化したものを作品にプリントアウトできる環境を整え、制作した作品のロビー展示を行うなど、ものづくりへの意欲向上を図った。

コンピュータグラフィックスコース

○指摘事項:地域との連携ができていないか。

地域との連携部分において、積極的な関わりといった点が不足しているという指摘を受け、「わキャラまーけっと!」といった、和歌山をキャラクターで活性化することを目的とした企業人の催しに参加し、学校PRを行うとともに、コンピュータグラフィックスコース学生が地域商店のキャラクターデザインを手掛けるなど、地域連携を図った。

○指摘事項:CGコースの就職率について

コンピュータグラフィックスコースにはゲーム業界やアニメ業界を目指す学生が多いが、就職率が他の科に比べて厳しいため、進路指導を充実させ、大阪のゲーム業界の就職フェアへの参加や企業訪問を実施し、また和歌山の地元デザイン業界やパッケージ会社へのパンフレット配布を行った。ゲーム業界とデザイン業界、どちらにでも通用するよう、年間何らかのコンクールにクラス単位で取り組み、全業界に通用するポートフォリオ作りを目標に作品制作を行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
喜田 至	日本ソフトウェアデザイン(株)	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
津村 泰史	(株)和歌山印刷所	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
廣崎 清司	和歌山情報サービス産業協会	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
塚田 晃司	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
満田 成紀	和歌山大学システム工学部	2018/3/1～2019/2/28	企業等委員
郷間 博敏	(株)ジーアイソフト	2018/9/1～2019/8/31	企業等委員
田中 弘	(株)システムキューブ	2018/9/1～2019/8/31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<http://www.myros.ac.jp/>

公表時期: H30年4月1日頃

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

年2回の評価委員会を開催するとともに、連携授業を行っていただく折に、意見交換会を実施している。

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・教育人材像
(2) 各学科等の教育	学校運営
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学習成果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育環境
(7) 学生納付金・修学支援	学生募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	法令の遵守
(10) 国際連携の状況	社会貢献
(11) その他	学生支援・社会貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.myros.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 IT 学科 システムエンジニアコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ベーステクノロジー	情報処理国家試験の基礎となる知識の習得 報処理技術者試験のベーシックテクノロジー分野	1年	108	7	○			○	○			
○			システムの利用と開発	ITパスポート試験及び情報セキュリティマネジメント試験あるいは基本情報技術者試験の合格を目指す	1年	108	7	○			○	○			○
○			マネジメントと戦略	情報処理技術者試験のマネジメント・戦略分野	1年	108	7	○			○	○			
○			アルゴリズム	基本情報技術者試験（午後試験）の中核となる「データ構造とアルゴリズム」について学習する	1年	108	7	○			○	○			
○			データベース	データベースの理解とSQLの理解 各種検定試験の対策となるようにする	1年	108	7	○	△		○	○			
○			表計算・アセンブラ	情報処理国家試験の基礎となる知識の習得	1年	108	7	○	△		○	○			
○			資格取得特別対策	基本情報技術者試験（午後試験）の中核となる「データ構造とアルゴリズム」について学習する	1年	36	2	○	△		○	○			
○			C#	C#応用技術・xamarinによるアプリ開発・Unityによるゲーム開発	1年	108	3	△	○		○	○			○
○			java	プログラミング言語javaを習得する	1年	108	3	△	○		○	○			
○			教育心理学概論 I	心理学の概論の中で、自己を分析することによって、性格を把握し、適職を探す	1年	36	2	○			○	○			
○			成功哲学 I	日常生活で誰もが体験する困難や障害を、どのように乗り越えるのか考え、成功へ導く	1年	36	2	○			○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 IT 学科 システムエンジニアコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ペン字 I	美しい文字を書く技術を身につける	1年	36	1	△	○		○	○			
○			ビジネス・コミュニケーション	ビジネスの上で必要なコミュニケーション能力を身に付ける	1年	36	2	○	△		○	○			
○			キャリアデザイン I	就職活動に必要な知識を身に付ける (社会人になる心構え、面接対策、内定のお礼状の書き方)	1年	36	1	△	○		○	○		○	
○			Excel (MOS Expert)	Excel (MOS Expert) 試験対策の為、Excel 操作を勉強する	2年	108	3	△	○		○	○			
○			マネジメントと開発	情報処理技術者試験のマネジメント・戦略分野 II	2年	72	4	○			○	○			
○			卒業制作 I	1年間を通して、卒業制作を行う	2年	180	4	○	○		○	○			
○			卒業制作 II	1年間を通して、卒業制作を行う	2年	72	3	○	○		○	○			
○			卒業制作 III	専門学校での学習成果を卒業制作としてまとめる	2年	72	3	○	○		○	○			
○			C# 応用	C# を使って、簡単な Windows アプリケーションが組めるようになる	2年	180	6	△	○		○	○			
○			Python	プログラミング言語 Python で、プログラムを組めるようになる	2年	108	3	△	○		○	○			
○			資格取得特別対策	習熟度別の資格試験対策授業	2年	25	1	○	△		○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 I T 学科システムエンジニアコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			一般教養	ビジネスマナーなど社会人としてのシーンに合ったマナーを学ぶ	2年	36	1	△	○		○	○			
○			ペン字Ⅱ	美しい文字を書く技術を身につける	2年	36	1	△	○		○	○			
○			キャリアデザインⅡ	就職活動に向けSPI対策、面接対策を行う	2年	72	2	△	○		○	○		○	
○			コミュニケーション	コミュニケーションの大切さを学び、ビジネスシーンにも通用するプレゼンテーションの技法の基礎を身につける	2年	36	1	△	○		○	○			
合計						26科目	2077単位時間(90単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 IT 学科 IT エキスパートコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ベーステクノロジー	情報処理国家試験の基礎となる知識の習得 情報処理技術者試験のベーシックテクノロジー分野	1年	108	7	○			○	○			
○			システムの利用と開発	ITパスポート試験及び情報セキュリティマネジメント試験あるいは基本情報技術者試験の合格を目指す	1年	108	7	○			○	○			○
○			マネジメントと戦略	情報処理技術者試験のマネジメント・戦略分野	1年	108	7	○			○	○			
○			アルゴリズム	基本情報技術者試験（午後試験）の中核となる「データ構造とアルゴリズム」について学習する	1年	108	7	○			○	○			
○			データベース	データベースの理解とSQLの理解 各種検定試験の対策となるようにする	1年	108	7	○	△		○	○			
○			表計算・アセンブラ	情報処理国家試験の基礎となる知識の習得	1年	108	7	○	△		○	○			
○			資格取得特別対策	基本情報技術者試験（午後試験）の中核となる「データ構造とアルゴリズム」について学習する	1年	36	2	○	△		○	○			
○			Office演習	Excelの基礎操作の勉強	1年	72	2	△	○			○			
○			web WordPress	HTML, CSS, JavaScript の習得	1年	108	3	△	○			○			○
○			CAD	CAD利用技術のブラッシュアップと操作を学ぶ。	1年	36	1		○			○			○
○			教育心理学概論	心理学の概論の中で、自己を分析することによって、性格を把握し、適職を探す	1年	36	2	○			○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 IT 学科 IT エキスパートコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			成功哲学Ⅰ	日常生活で誰もが体験する困難や障害を、どのように乗り越えるのか考え、成功へ導く	1年	36	2	○			○		○		
○			ペン字Ⅰ	美しい文字を書く技術を身につける	1年	36	1	△	○		○		○		
○			ビジネス・コミュニケーション	ビジネスの上で必要なコミュニケーション能力を身に付ける	1年	36	2	○	△		○		○		
○			キャリアデザインⅠ	就職活動に必要な知識を身に付ける (社会人になる心構え、面接対策、内定のお礼状の書き方)	1年	36	1	△	○		○		○		○
○			Excel (MOS Expert)	Excel (MOS Expert) 試験対策の為、Excel 操作を勉強する	2年	108	3	△	○		○		○		
○			マネジメントと開発	情報処理技術者試験のマネジメント・戦略分野Ⅱ	2年	72	4	○			○		○		
○			卒業制作Ⅰ	1年間を通して、卒業制作を行う	2年	180	4	○	○		○		○		
○			卒業制作Ⅱ	1年間を通して、卒業制作を行う	2年	72	3	○	○		○		○		
○			卒業制作Ⅲ	専門学校での学習成果を卒業制作としてまとめる	2年	72	3	○	○		○		○		
○			CADⅡ	実際に部品の制作を行う等、操作技術を磨く	2年	36	1		○				○		○
○			簿記	社会人として必要な簿記の基本的な知識を身に付ける。並びに、日商簿記検定3級の対策授業。	2年	144	4	○					○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 I T 学科 IT エキスパートコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			WordPress 応用	HTML, CSS, JavaScript の習得から検定取得までを目指す	2年	108	3	△	○				○	○	
○			資格取得特別対策	習熟度別の資格試験対策授業	2年	25	1	○	△		○		○		
○			一般教養	ビジネスマナーなど社会人としてのシーンに合ったマナーを学ぶ	2年	36	1	△	○		○		○		
○			ペン字Ⅱ	美しい文字を書く技術を身につける	2年	36	1	△	○		○		○		
○			キャリアデザインⅡ	就職活動に向けSPI対策、面接対策を行う	2年	72	2	△	○		○		○	○	
○			コミュニケーション	コミュニケーションの大切さを学び、ビジネスシーンにも通用するプレゼンテーションの技法の基礎を身につける	2年	36	1	△	○		○		○		
合計					28科目	2077単位時間(89単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学習成果の評価は、基本的には「学習の手引き」に基づいて行われ、成績・出席率・課題提出物・授業に取り組む姿勢等で、AからDまでで判定される。Dでは判定評定が付かず、単位は与えられない。成績は進級審査会議・卒業審査会議で審査され、各主担当教員が付けた成績が打倒かどうか審議され、決定される。2年間で1700時間以上で卒業を認定し、専門士の称号を授与する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 IT 学科 コンピュータグラフィックスコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CAD I	CAD利用技術のブラッシュアップと操作を学ぶ	1年	36	1	○					○	○	
○			3 DCG演習 I	3 DCG演習でモデリングを行う	1年	108	3	△	○				○		
○			web WordPress	HTML, CSS, JavaScript の習得	1年	108	7	○	△				○	○	
○			MUDBOX演習	オブジェクトをMADBOXソフトを使って3Dモデリングを行う	1年	108	3	△	○				○		
○			色彩論 I	配色の基礎を勉強し、実務的なデザイン力を身に付けると共に色彩検定3級を目指す	1年	36	2	○	△				○		
○			デッサン I	静物を描くところから、デッサン力を向上する	1年	108	7	○	△				○		
○			DTP演習	Photoshop、Illustratorの操作を課題を与えながら学ぶ	1年	72	2	△	○				○	○	
○			映像制作 I	PremiereProとAfterEffectsを使って映像編集技術を学ぶ	1年	72	4	○	△				○		
○			キャラクターデザイン I	アニメーションの為にキャラクター製作を学ぶ	1年	72	4	○					○		
○			情報概論	ITパスポート取得などを視野に入れ、ITに必要な最低限の知識を学ぶ	1年	108	7	○					○		
○			Photoshop illustrator 演習	検定取得のための基本操作を学ぶ講義が主になる	1年	72	4	○					○	○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 I T 学科 コンピュータグラフィックスコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Office演習	Excelの基礎操作の勉強	1年	36	1	△	○					○	
○			キャリアデザイン I	就職活動に必要な知識を身に付ける (社会人になる心構え、面接対策、内定のお礼状の書き方)	1年	36	2	○	△			○		○	○
○			ペン字 I	美しい文字を書く技術を身につける	1年	36	2	○				○		○	
○			教育心理学概論	心理学の概論の中で、自己を分析することによって、性格を把握し、適職を探す	1年	36	2	○				○		○	
○			Webデザイン	HTMLの言語を取得する	2年	36	2	○						○	
○			3 DCG演習 II	3 DCG演習でアニメーションを動かす	2年	108	3	△	○					○	
○			WordPress 応用	HTML, CSS, JavaScript の知識・技能を習得し、検定取得を目指す	2年	108	7	○	△					○	○
○			MUDBOX演習 II	オブジェクトをMADBOXソフトを使って3Dモデリングする	2年	108	3	△	○					○	
○			色彩論 II	応用的なデザインに必要な配色を学び、色彩検定2級取得を目指す	2年	72	4	○						○	
○			デッサン II	人物デザインをはじめ、様々なテクスチャの物体を描く	2年	72	4	○	△					○	
○			DTP演習	Photoshop、Illustratorの操作を課題を熟しながら学ぶ	2年	72	2	△	○					○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 I T 学科 コンピュータグラフィックスコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			映像制作Ⅱ	PremiereProとAfterEffectsを使って映像編集技術を学ぶ	2年	72	4	○	△				○		
○			キャラクターデザインⅡ	アニメーションの為にキャラクター制作を学ぶ	2年	72	4	○					○		
○			卒業制作	個々で卒業発表の為に作品を制作する	2年	144	4	△	○				○		
○			Photoshop Illustrator 演習Ⅱ	専門的なPhotoshop、Illustratorの知識を取得し、即戦力となる技術を学ぶ	2年	72	4	○					○		○
○			キャリアデザインⅡ	就職活動に向けSPI対策、面接対策を行う	2年	72	4	○			○		○		○
○			ペン字Ⅱ	美しい文字を書く技術を身につける	2年	36	2	○			○		○		
○			ビジネスマナー	ビジネス文書の作成について学び、文書作成能力の向上を目指す	2年	36	2	○			○		○		
○			一般教養	ビジネスマナーなど社会人としてのシーンに合ったマナーを学ぶ	2年	36	2	○	△		○		○		
合計						30科目	2160単位時間(102単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学習成果の評価は、基本的には「学習の手引き」に基づいて行われ、成績・出席率・課題提出物・授業に取り組む姿勢等で、AからDまでで判定される。Dでは判定評定が付かず、単位は与えられない。成績は進級審査会議・卒業審査会議で審査され、各主担当教員が付けた成績が打倒かどうか審議され、決定される。2年間で1700時間以上で卒業を認定し、専門士の称号を授与する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。